伊丹市立総合教育センターだより

総合センター

平成29年1月4日号（№171）

「　だてマスクとマナー　」

伊丹市立総合教育センター
所長　後藤　猛虎

「新年　明けまして　おめでとうございます」

本年も総合教育センターをどうぞよろしくお願いいたします。

さて、インフルエンザが例年より早く流行っています。マスクのお世話になる人も多くなってきました。少し気になることですが、昔に比べて、マスクをする人が多くなったと感じるのは私だけでしょうか。以前勤務していた学校では、風邪を引いていたのでしょうか、２週間以上、終日マスクをつけていた先生がいました。

全国高等学校ＰＴＡ連合会が、３年前、全国の高校生を対象にした調査（回答６１２３人）の中で「病気や予防でもないのにマスクをすることがある」と回答したのは、男子のうち１２．９％、女子では３３．６％を占めました。自由記述で答えた１４１０人のうち、「顔を隠して落ち着きたい」との回答が６１９人で最多でした。顔をかくす理由は、「ニキビなどを隠したい」「安心する、落ち着く」「表情を隠すため」だというのです。メールやＳＮＳでのコミュニケーションに慣れた若者にとっては、生の言葉や相手の表情を見て話すことや人との関わりが苦手なため、本音の自分を見られないようにマスクをすることで安心したり落ち着いたりするのかもしれません。どうも、マスクの利用方法が少しずつ変わってきているようです。しかし、これは高校生に限ったことではなさそうです。大人でもあり得ることです。

一方、「マスク」のマナーについて、一般市民に「マスクの着用で許されないのは」という調査があります。それによるとマスクの着用で許されないのは、「商談中」「ビジネスで社外の人と会う」「結婚式の出席」「通夜・葬儀への参列」「接客業の人」などです。つまり、着用をしない方がよいのは、Ｔ（時間）Ｐ（場所）Ｏ（場合）Ｐ（人）などと関係しているようです。

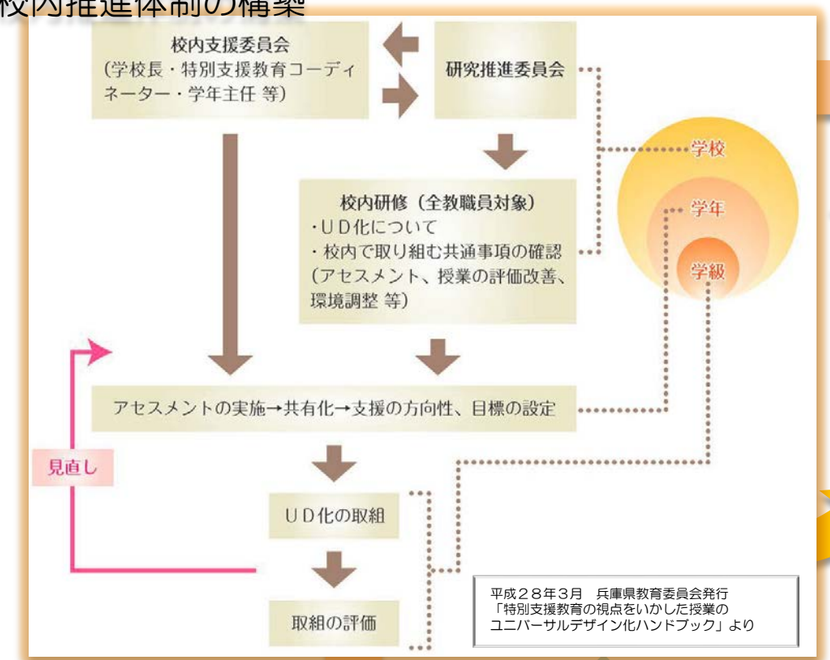
顔をかくして安心したり、落ち着いたりする人にとって、マスクのマナーは窮屈なことかもしれません。しかし、ＴＰＯに応じてマナーを守ったり、円滑なコミュニケーションを図ったりするためには、マスクを外して顔を見せることは大切です。マスクをせず風邪をまき散らしては困りますが、先生方には、子どもたちにその時その時の表情を見せてコミュニケーションを図ってほしいものです。

教育のユニバーサルデザイン化

Universal Design
ユニバーサルデザインとは… 障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、すべての人にとって使いやすいようにつくられたデザインのこと

全ての子どもが「楽しい」「わかる」「できる」ために、「教育のユニバーサルデザイン化」が重要だと言われています。教育におけるユニバーサルデザインの考え方や取り組み例について、まずは基本的なことを知り、できることから実践していきましょう。そして実践を学校全体で共有することで、よりよいものをめざしていきましょう。

校内推進体制の構築



改善

共有（学級での取り組み）

全ての子どもたちの成長へ

改善

共有（学級での取り組み）

「集中できる学級」のために

【教室の環境】

○黒板周りの掲示…視覚的な刺激を減らし、学習へ集中できるようにしよう
- 主な掲示物は廊下側や背面の掲示板を使う
- 黒板の周りに掲示物や棚がある場合は、授業中だけでも無地のカーテンで覆う

○座席配置…子どもに合わせて座席配置を工夫し、刺激の調整・軽減・配慮をしよう
- 個別の指導が必要な子どもは前の方に配置する
- 外の物音や景色に気をとられやすい子どもは座席を出入り口や窓から離す
- 子ども同士の人間関係を把握し、座席配置に配慮する

○予定表やスケジュール表…見通しを持たせ、自発的に活動できるようにしよう
- 「いつ」「どこで」「何を」「どのように」するのかを、「見える形」で掲示する

○予定変更の伝え方…できるだけ早く変更事項と理由を伝え、安心して行動できるようにしよう
- 口頭での説明だけでなく、時間割に変更箇所を書き込んだり、変更内容のプリントを配るなど、視覚的にもわかりやすくする

【学習や生活の決まり】

○学習活動の決まり…早い段階から身につけさせ、学習態度の育成につなげよう
- 決まりを視覚化する（例：給食の食器の配膳の絵を提示する、タイマーを使って残り時間を示す等）

○学級生活の決まり…具体的に示すことで、自発的な行動を促すようにしよう
- 係や活動内容を具体的に決めておく（例：掃除当番　教室の窓ふき係は、△曜日は○○さん、内容は～等）

○身のまわりの整頓…持ち物の整理整頓をさせ、落ち着いて学習に向かえるようにしよう
- 片付けの見本を示したり、机や引き出しの所定の位置にシールを貼ったりして、持ち物がどこにあるのか、どこに置けばよいのか常にわかるようにする

「わかる授業」のために

【授業構成】

○準備の指導…授業にスムーズに参加できるようにしよう
- 教科ごとに、授業が始まる前に準備するものを決めておく
- 道具を置く場所を写真や図で示す等、視覚的に伝える

○導入の工夫…興味を引き出し意欲を持てるようにしよう
- 前の時間の復習をし、今までの学習の流れを確認する
- めあてを確認し、本時の目的を意識できるようにする

○学習形態の工夫…学習に参加しやすい環境を作ろう
- 学習のねらいに関わる内容や、全員で確認・練習する必要があるものは一斉学習で確実におさえる
- 学習内容を深めたい時は、一人で考える時間と、ペア・グループ学習など使い分け、多様な考えを持てるようにする

○授業構成の工夫…１時間の中で多様な活動を取り入れ、集中が続くよう配慮しよう
- ＩＣＴ機器を用いて、情報を視覚化・聴覚化したものを活用する学習
- ワークシートやノートなど、書くことで思考を焦点化する活動
- グループワークや話し合い等、友だちと交流し考えを共有化する活動

【発問や指示】

○発問や指示の工夫…分かりやすく伝えよう
- 複数の指示をする場合は「これから○つの話をします」など、子どもたちが見通しを持って聞けるようにする
- 話は「短く」適切な「音量」「速さ」で行う
- 必要に応じて、「絵や写真」など視覚的な補助も加えて伝えるようにする

【板書】

○板書の工夫…見やすく、分かりやすくしよう
- 後ろの席からでも見える「大きさ」「高さ」で板書する
- 色や行間を使い分け、大事な部分や、内容の区切りが分かるようにする

伊丹市では、教育のユニバーサルデザイン化推進に向けて冊子を作成しています。
学級・授業づくりや就学前の取り組みについてわかりやすく記載しています。
また、様々な場面での実践事例集も作成しています。是非ご活用ください。

特別支援教育ハンドブック
Q&A
平成２６年３月

みんなの教室みんなの授業
教室のユニバーサルデザイン化
平成２７年４月

みんなの教室みんなの授業
実践事例集
平成２８年４月

平成28年第5回伊丹市議会における質問

平成２８年第５回市議会（１２月議会）での質問から「特別支援学級の現状と課題」についての質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

特別支援学級の現状と課題について

(1)なぜ特別支援の児童・生徒数が激増しているのか

(2)小学校については、放課後児童くらぶの教室も不足しがちである中で、特別支援学級の教室の確保の見通しは立っているのか

【答弁内容抜粋】

（学校教育部長答弁）（前略）

特別支援学級の児童・生徒数の増加についてでございますが、伊丹市の小中学校における児童・生徒数は、平成２４年度から２８年度の５年間の間に、小学校で約２００人、中学校では、約３００人減少しております。しかしながら特別支援学級は、小学校で、２５０人から３５５人に、中学校で、７１人から９５人と、どちらも約１.４倍の増加となっております。この状況は、近隣市をはじめ全国的な傾向でもあります。

また、特別支援学級在籍児童生徒数を障害の種別で比べてみますと、弱視学級、難聴学級、肢体不自由学級などは、あまり変化がないものの、知的障害学級と自閉症・情緒障害学級は大幅に増加しております。つまり、幼い時から気づきやすい障害に比べ、気づきにくい障害種別において増加していることがわかります。

では、「なぜ、激増しているのか」ということについてでございますが、世の中の発達障害等についての理解が進み、特別支援教育の推進により障害についての知識が社会に普及することにより、家庭や就学前施設、学校において、子どもの障害に早期に気づき、支援をするようになったことが主な増加要因と考えられます。

次に、学級数の増加に対応した教室の確保の見通しは立っているのかのご質問についてでございますが、学級数は、平成２４年度から２８年度の５年間に、小学校で５６学級が７４学級に、中学校では、２３学級が２４学級にと、特別支援学級在籍児童生徒の増加に伴い、学級数も増加しております。

現時点では、小・中学校の児童生徒数の減少に伴い、通常学級数も減少していることから、特別支援学級の教室の確保はできております。

また、学習効果が得られる場合、一つの教室をアコーデオンカーテンの間仕切りによって分けたり、学習内容によっては、共有の場を設定したりするなど、学校の協力や教職員の取組の工夫によって、様々な学びの場を確保し、個に応じた教育を行えるよう、各学校において、前年度から準備をしております。

今年度施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」いわゆる「障害者差別解消法」により、特別な支援へのニーズが高まってきております。今後も、障害の有無にかかわらず、全ての子どもたちが社会の一員として豊かに生きることができるよう、さらなる特別支援教育の推進に努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

発　行　伊丹市立総合教育センター
月～金　9:00～21:00　所在地　〒664-0898 伊丹市千僧１丁目１番　TEL 072-780-2480　FAX 072-780-2482
土　9:00～17:00
休館日　日曜・祝日、年末・年始　総合教育センターHP　http://www.itami.ed.jp/